

第20回 JAB特別セミナー（公開）



平成29年10月25日 16:00～17:30
広島大学生物生産学部 C301教室

演題 I

ニワトリ卵関連形質の表現型の因果関係ネットワーク

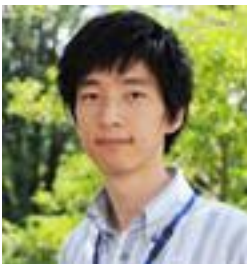


後藤 達彦 助教

帯広畜産大学・生命食料科学研究部門

演題 II

集団遺伝学を用いた行動の分子基盤の解明の試み： 攻撃行動と先天的発声を例に



新村 毅 准教授

東京農工大学農学部

連絡先： 都築 政起

tsudzuki@hiroshima-u.ac.jp

082-424-7950（内線 7950）



**第20回JAB特別セミナー（公開）**

2017年10月25日 16:00~17:30 広島大学生物生産学部C301教室

ニワトリ卵関連形質の表現型の因果関係ネットワーク**後藤達彦**（帯広畜産大学・生命食料科学研究部門）

我々は、大シャモおよび白色レグホーンを基にしたF₂資源家系を用いた卵関連形質に関する量的形質遺伝子座(QTL)マッピングを行い、100を超える遺伝子座を検出してきた(Goto and Tsudzuki, J Poult Sci 54:1-12, 2017)。これまで用いてきた従来のQTLマッピングは、単一形質に対して表現型と遺伝子型との関連を解析する方法である。卵重・卵白重のような相関の高い形質の間には、例えば、卵重を決めるための原因は卵白重であるというような、因果関係が存在すると考えられる。本発表では、表現型の因果関係を考慮したQTLマッピング法を用いることによって明らかにできる卵関連形質の表現型ネットワークについて紹介する。

**集団遺伝学を用いた行動の分子基盤の解明の試み：
攻撃行動と先天的発声を例に****新村 毅**（東京農工大学農学部）

近年の次世代シーケンサーの発達により、全ゲノム解析は困難ではなくなり、解析手法も日進月歩である。中でも、野生動物や家畜などの遺伝的にヘテロな状態にある動物を対象にした集団遺伝学的解析手法は、注目に値する。また、日本には大シャモや長鳴き鶏などのユニークな行動・発声を示すバイオリソースが存在する。本発表では、それらの材料と解析手法を用いて進めている行動の分子制御機構の解明に向けた試みについて紹介したい。